

(令八国グ後)

小論文

- ・問題は1～9ページである。
- ・下書き用紙は中に2枚入っている。

注意 解答は答案用紙に縦書きで記入しなさい。

小論文 二〇〇点

次の文章を読んで、あとの問一〜三に答えなさい。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

著作権保護の観点から、問題は掲載していません。

出典 村松聡『つなわたりの倫理学』(株式会社KADOKAWA、二〇二四年)より。ただし、一部省略・改変した部分がある。

注

- 1 カント——ドイツの哲学者(一七二四〜一八〇四)。
- 2 サンデル——アメリカの政治哲学者(一九五三〜)。
- 3 キケロ——共和政ローマの哲学者、政治家、弁論家(紀元前一〇六〜紀元前四三)。
- 4 ポエニ戦争——ローマとカルタゴの間で行われた一連の戦争。
- 5 塩野七生——日本の作家、評論家(一九三七〜)。

問一 傍線部(ア)について、筆者は倫理的原則をどのようにみなすべきと考えているか、二〇〇字以内で述べなさい。(配点三〇点)

問二 傍線部(イ)について、キケロがどのように判断した理由を、約束についての彼の見解に言及しつつ、三〇〇字以内で説明しなさい。(配点五〇点)

問三 嘘をつかない、約束を守るといふ誠実さをどのように捉えるべきか、本文の議論をふまえつつ、一〇〇〇字以内で論じなさい。(配点二二〇点)